

武衛の國司返攻され

國より勢を拘りし事

東より下海君獨所乃人

を以て得て一日とふ事

を以て得て一日とふ事

武衛の國司返攻され

國より勢を拘りし事

東より下海君獨所乃人

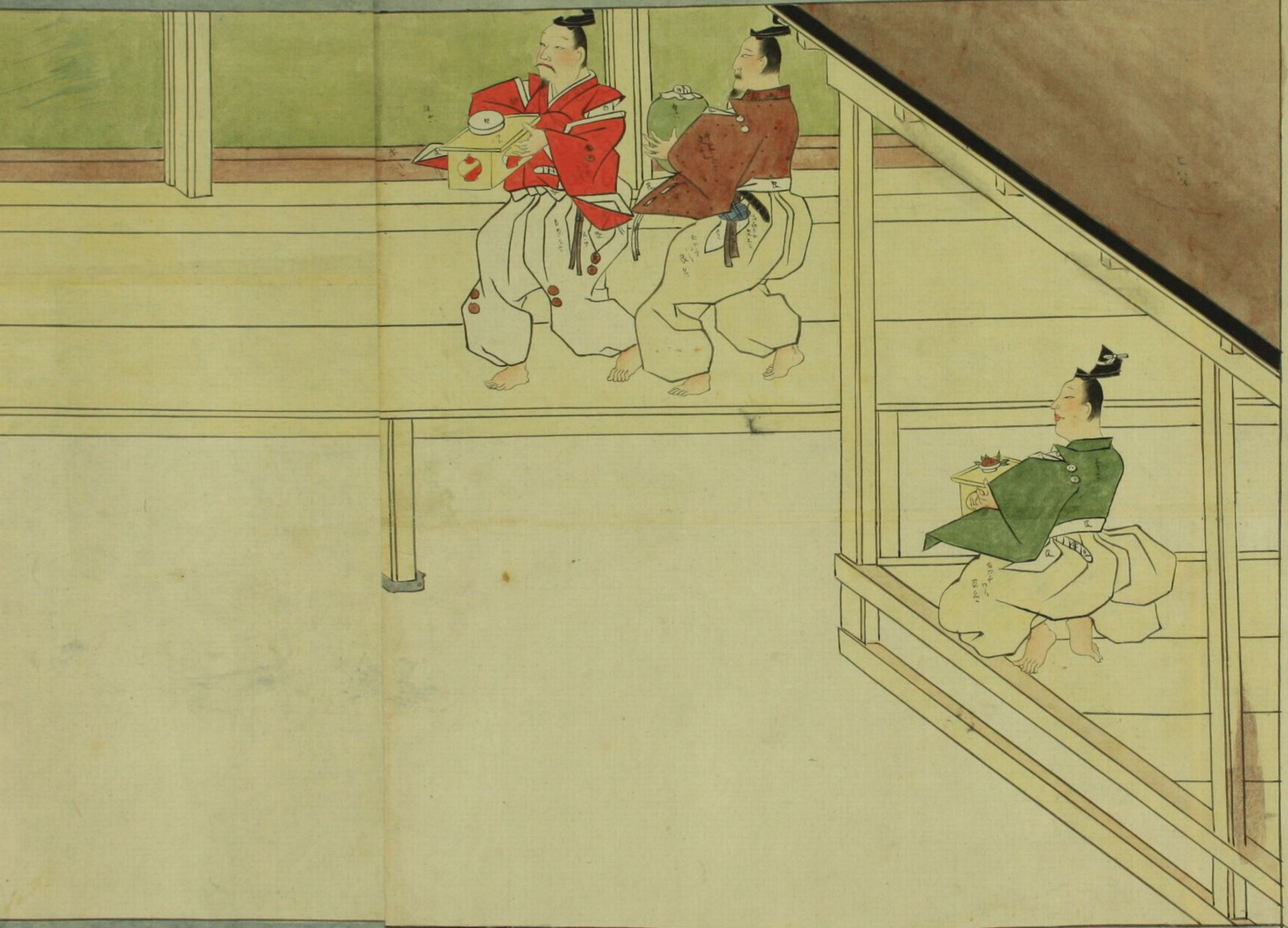
を以て得て一日とふ事

武衛の國司返攻され

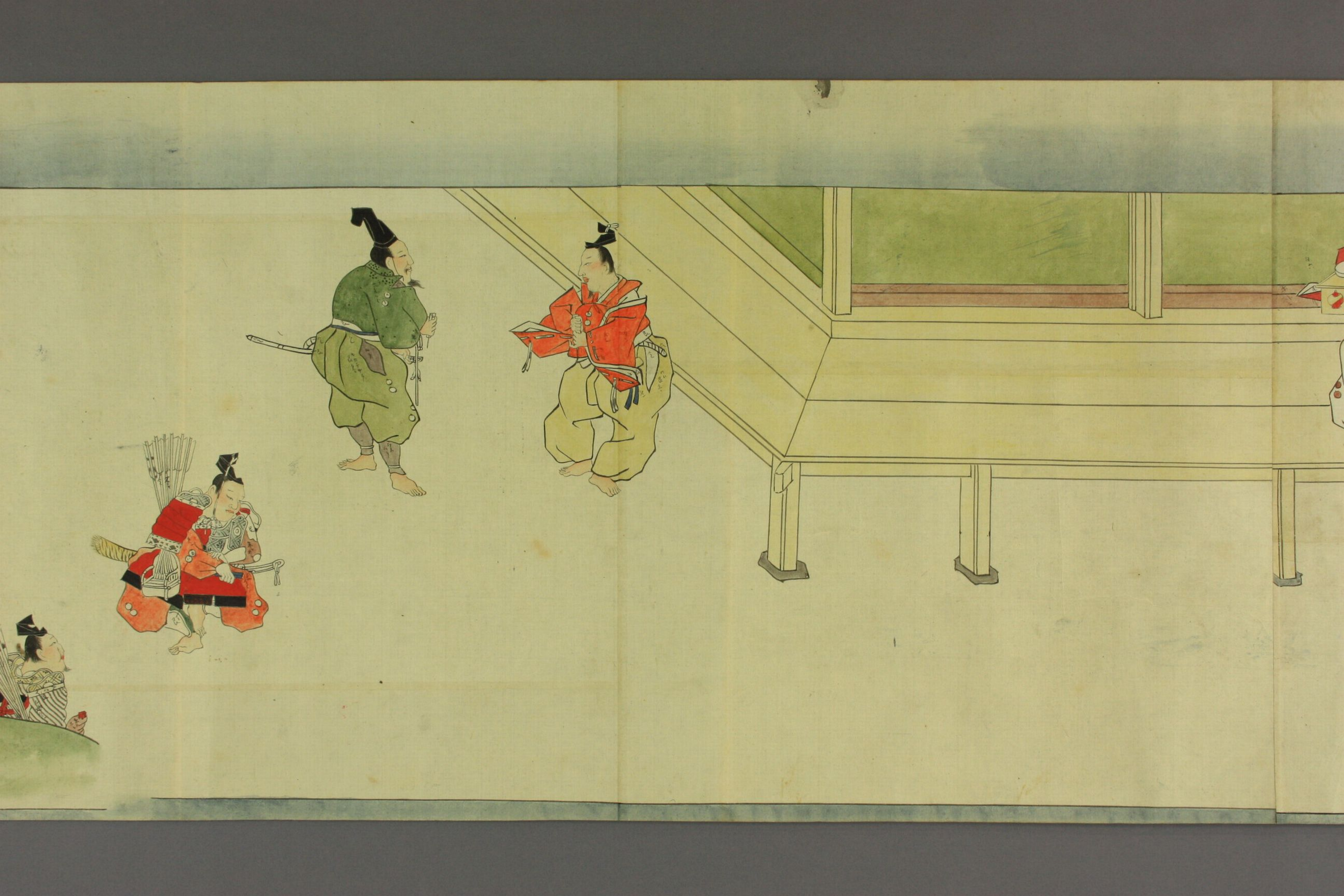
堀田内庫

藏書

藏書



家にもいにおし
 一か路へく来た
 家衛るれ
 武衛る
 金澤此
 志多 沼梅とす







將軍の令弟 右衛尉義光思ハ侍小
 末まゝに將軍にありし海云の末に 我志
 一 成敗に任りいしを中侍と云義家
 弟にせめて終つてあはれく侍りしに したまは
 方のいし海を給く死下て死生を思ふに
 一 一と云ふまを給くさり一 一 右衛尉を

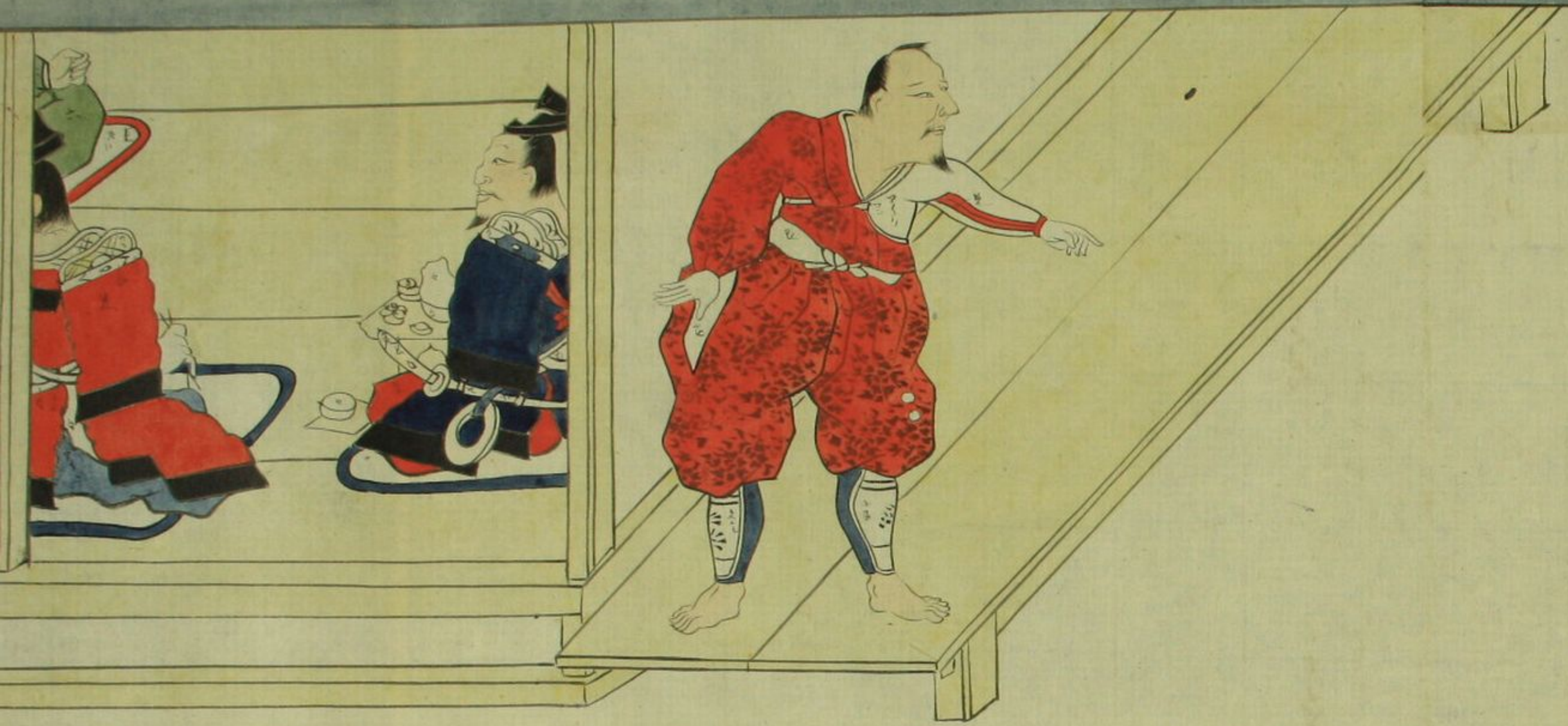
来きし軍にありし海軍のあり我志
し成敗く院りいしを中侍と云義家
弟りせめ終くあぶく侍ししはたまた終
月のいし海を流く死下て死生を思ふむす
ししと云やまを流くさりしは兵衛尉を
辞して死下くなむ侍しし義家あまをさ
あまを流くいし海と掃く云とるうこの来終
魚は故入道のいさく流りておしし
あまを流くいし海と掃く云とるうこの来終
行むは武衛家衛の首をえむ事業しし
しし前陣北軍とてに責ふりて我ふ城中
らひぬいし夫の下事而れおしし將軍の
旨をとらふとの甚し相掎四任人鎌倉志
権五郎系山といふ者も先程より聞か
るなり年よりし十六歳よりおはる
志前りありて命をすししはあふ國を征
夫あま右の目といしは川首といしは
甲北より流き乃しは伊流きしはね矢と
りしはてあのみを射く敵流ししはは後
志りしはあまを流くいし海と掃く云とるうこの来終
ししと云やまを流くさりしは兵衛尉を
浦の平右衛門為次といふはあまを流くいし海と掃く云とるうこの来終

けりて南の夫を討て敵討てしに於て後
志りうよゆそしつとぬまて京正平貞月
しりそのけさゆふ布の回國の去之
浦の平右衛門為次といふとぬまて京正
えとぬまのぬまはぬまて京正
う顔とあまう夫張ぬまて京正
なう力をぬまてくる次うまて京正
まあ斗はまてはむ守為次あまて
あまてふまてぬまて京正
屋うら兼にあまてぬまて京正
いふのせぬまてぬまて京正
志う世をぬまて我愛りて
まてぬまてぬまて勝とぬま
危顔とおまぬまて夫をぬまてぬま
是れ京正の高名らぬまてか
くてまぬまてぬまて京正
那うぬまてぬまてぬまて京正
とぬまのぬまてぬまて京正
石らとぬまてぬまて京正
あまて健次郎儀杖助兼ぬまてぬま
かまも也はぬまて軍北先ぬまてぬま
とぬまぬまてぬまてぬま



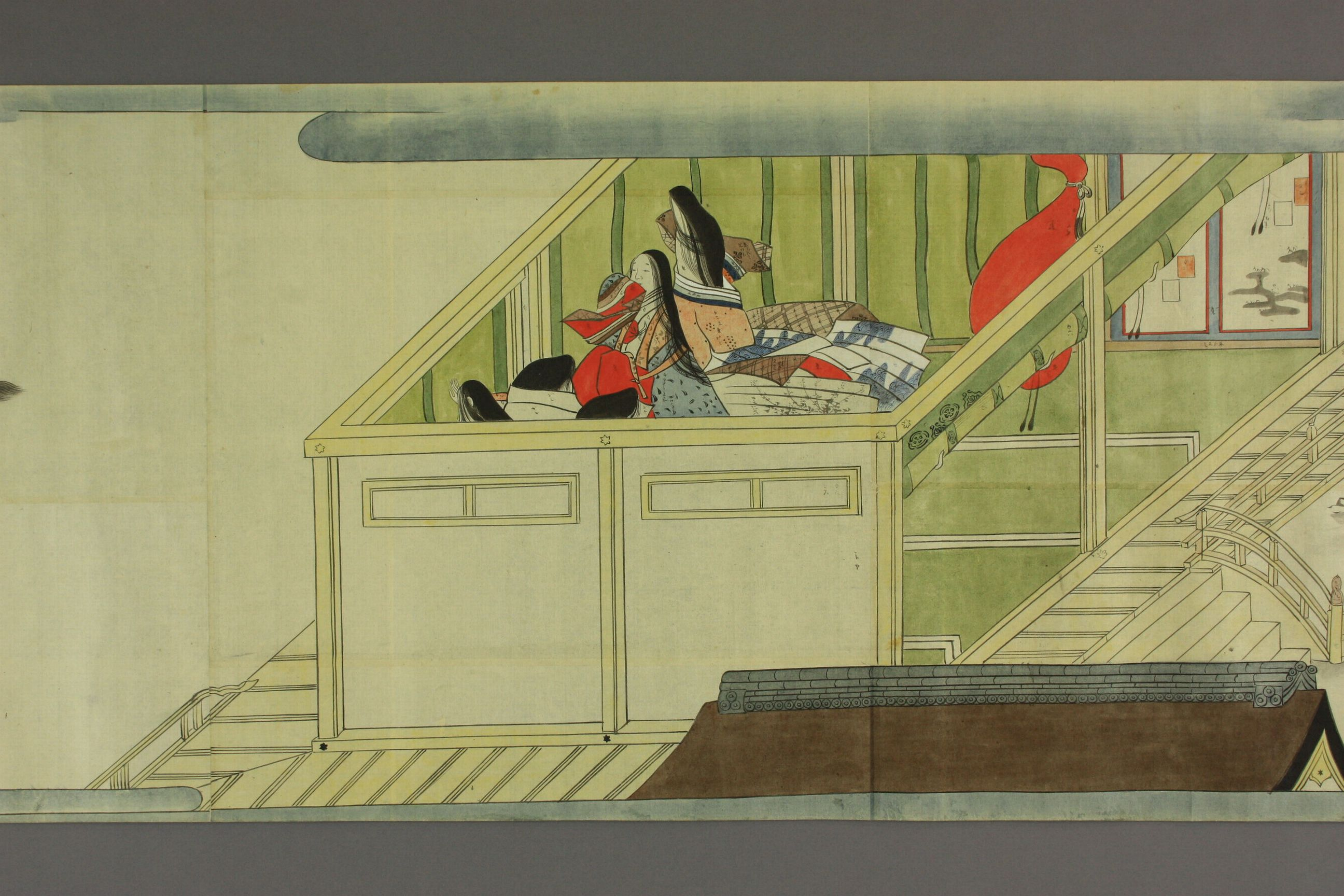








あはれなる鳥の鳴き声
あはれなる鳥の鳴き声

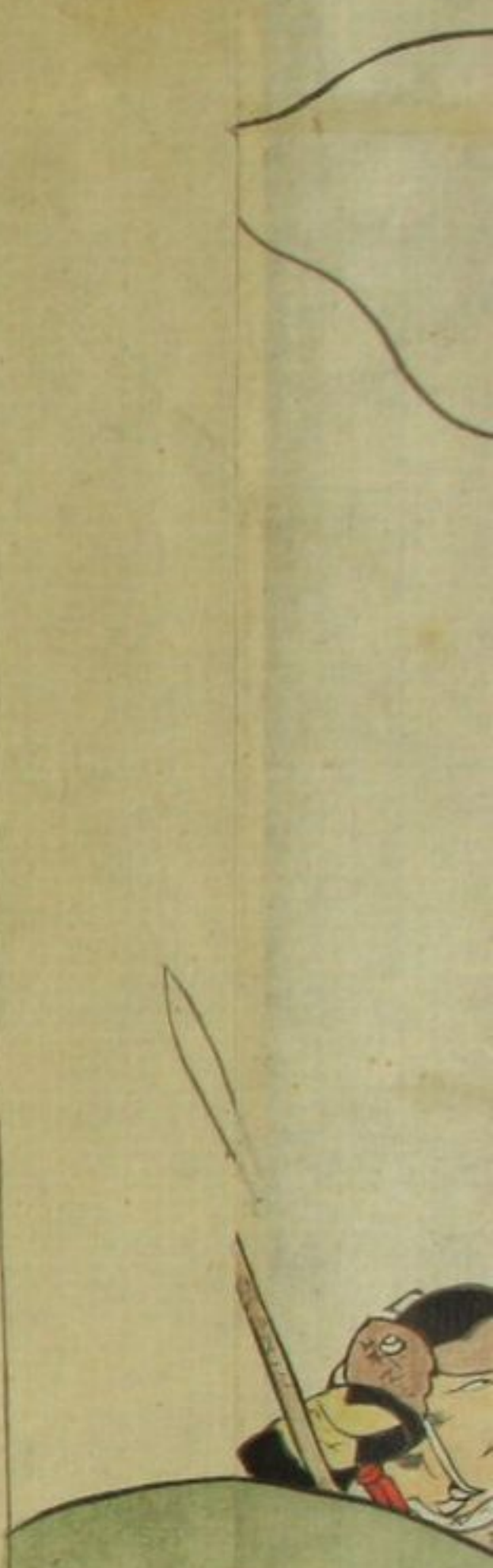












將軍乃いくさすふ無澤名柵ふりて
 きぬをきせしとて野山伐ふくさ
 引の科 石乃雲らとわらるる鷹陣をらば
 地ふやまをそめまにちりてさふ將軍はらふ
 ままをみまあやとておらきとさ
 野をさすふとておらきとさ
 二十餘濟の号と尋えしとて武術が
 とらるるたり物守の号とて伊り

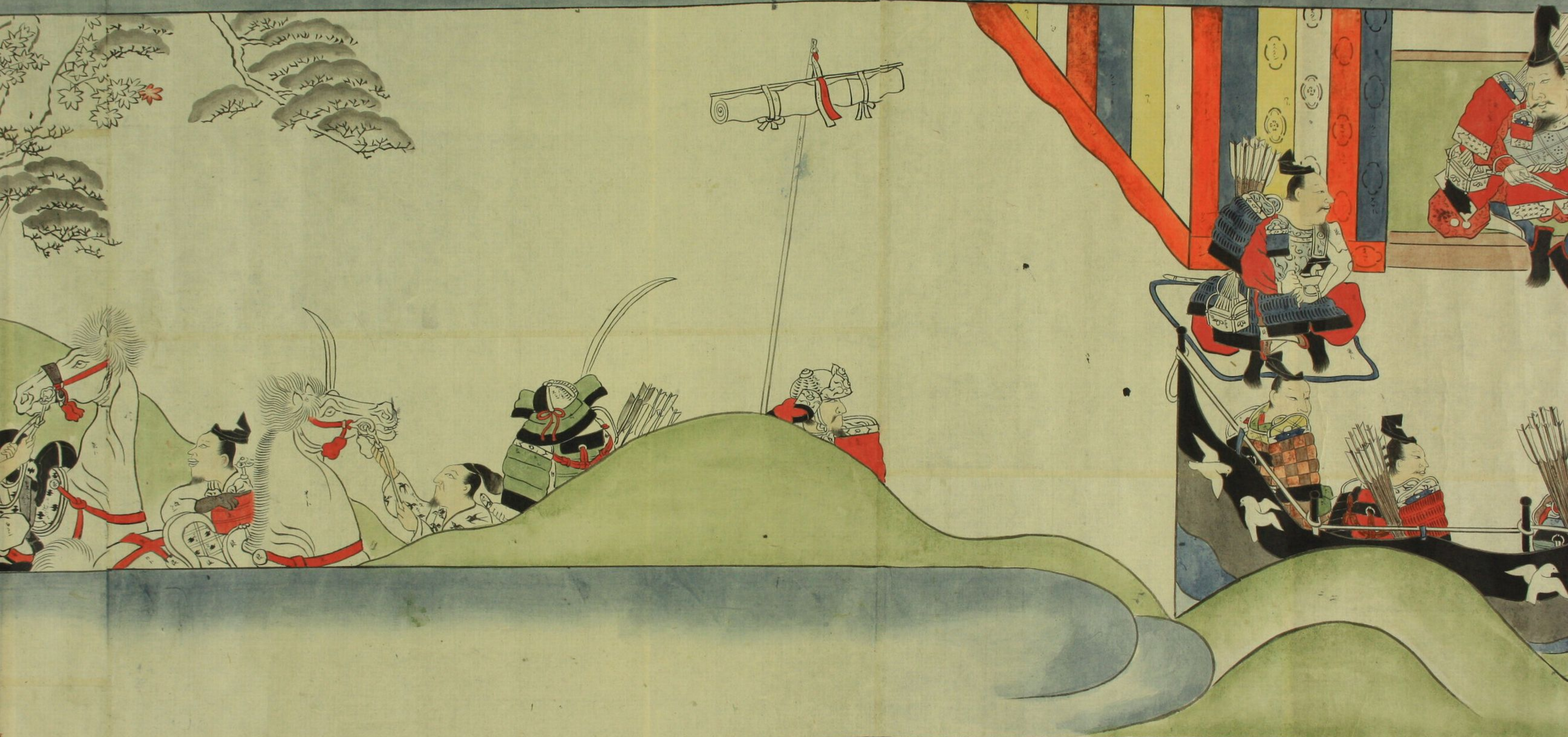
書し得らぬ義家の胡は先年字治
 庵と泰して貞任をさめし事ゆかり
 と江戸馬房跡をらきとて悪量とて武
 士此合戦乃道成志とぬし獨あらぬを
 義家より師本園くつらぬの号とけや
 あらぬし義家の胡は先年字治
 かゝる義家あまをさすふ事念いらる
 して江戸乃物とてさすふ事念いらる
 人しは其後ほふあひく文をよみ
 義家とて是文をよみけり



かの義家とよむとて
 して師乃出〜終る所ふりて〜會
 尺一法其後法乃あひく文を〜
 義家とよむ文此ふら終りかす八家め〜
武衛 〜〜あにやち終り〜終り〜
 仕とあふ厚法〜をや〜い〜
 〆







祠文殿寄人仲直

